

2019 年度 事業報告書

自 2019 年 4 月 1 日
至 2020 年 3 月 31 日

公益財団法人日本テレビ小鳩文化事業団

2019年度 事業報告

2019年4月1日～2020年3月31日

1. 視聴覚障害者の日常生活の支援及び生活支援の援助者養成

(1) 手話放送番組の制作支援

日本テレビのニュース番組「NNNニュースサンデー」の手話放送に出演する手話通訳士の派遣事業。当該番組は、毎週日曜午前6時15分～6時30分まで全国ネットで放送でしている。手話通訳を、画面右下にワイプで挿入している。

2019年度も東京都聴覚障害者連盟から推薦を受けた4名の手話通訳士が、交互に年間52回の手話放送に携わり、聴覚障害者の方々への情報サービスを行ってきた。

(2) 点字カレンダーの製作及び無料配布

点字カレンダーは、1976年より制作して全国に無料配布を開始して以来、44年間続けている基幹事業。

月ごとに美しい写真を付けて、晴眼者と視覚障害者とのコミュニケーションを深める願いが込められている。2020年版は、「日本の世界遺産」をテーマに2万部を製作。日本点字図書館の協力で、全国盲学校、盲人施設、盲人福祉関係団体、在宅盲人に無料配布した。また、日本テレビネットワーク各社の協力を得て、全国各地で別途2万部余りの無料配布も行った。

(点字製作：日本点字図書館 写真撮影：岩本圭介氏 デザイン：神馬俊二氏)

(3) 手話スクールの開講と手話の普及事業

手話スクールは、1975年に開講して以来、現在まで毎年行っている基幹事業。

手話ができる人を一人でも多く増やし、聴覚障害者への生活支援に貢献してもら

うことを目的としている。

2019年度は、入門編・基礎編の1, 2年生に加え、新たに上級編である3年生の授業を開講した。3年生の講座は、手話をさらに深く学び、地域で手話を生かした活動や手話通訳者を本格的に目指したい人のために開設した。

土曜日（1年生 13:20～14:40、2年生 14:50～16:10、3年生 14:00～15:20）に開講。年間27回行った。

会場： 弘済会館 （東京都千代田区 麴町）

講師： 1, 2年生 田原 直幸（たはら なおゆき）

3年生 目黒 和子（めぐろ かずこ）

助手： 堀 浩司（ほりひろし） 黒澤るみ子 村山佳子

生徒数： 1年生 37名、2年生 31名、3年生 25名

（2020年3月31日現在）

24時間テレビへの協力

手話スクールの手話コーラス部員6名が、8月24日（土）～25日（日）の「24時間テレビ」に出演し両国国技館のステージに立ったほか、手話通訳士5名が、聴覚障害者の来場に対応するための手話通訳ボランティアとして協力した。

（4）視覚障害者に向けて ～ラジオ番組からの情報発信

視覚障害者に役立つ情報や、晴眼者にとっても有益な情報を発信する、ラジオ日本のラジオ番組「小鳩の愛」を2014年4月より放送開始。丸6年が経過した。

2020年度には7年目を迎える。毎週日曜日の朝7時5分から20分まで放送。ラジオ日本と富山県をカバーする北日本放送、KNBラジオでも放送されている。

また、視覚障害者、聴覚障害者が一緒に楽しめる、「番組連動企画」イベントとして、バリバフリー演劇結社「ばっかりばっかり」の演劇公演を、板橋区龍福寺にて、

11月2日（土）から4日（月・祝）、計5回公演を行った。

また、同じく番組連動企画として、視覚障害者のシンガーである佐藤ひらりさんのコンサートを3月22日（日）に川崎市で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、やむなく中止となった。

2. 視聴覚障害者を支援する団体への助成

(1) 聴覚障害児の学校への助成

助成先：学校法人日本聾話学校

下記日程で開催された日本聾話学校の夏期学校への助成。耳の不自由な児童生徒にとって、親元から離れて過ごす団体生活は心身の鍛練と秩序ある団体生活の貴重な体験であり、一般社会へ順応する訓練になった。

○幼稚部

6月27日（木）～28日（金）1泊2日 大地沢青少年センター（町田市相原町）

参加人数：生徒4名、教師6名、計10名。

○小学部生徒

7月3日（水）から5日（金）2泊3日 群馬県利根郡片品村東小川（シャレー丸沼）

参加人数：生徒25名、教師9名 計34名

○中学部生徒

7月10日（水）～7月12日（金）2泊3日

長野県南佐久郡川上村秋山（せせらぎの里町田市自然休暇村）

参加人数：生徒15名、教師7名 計22名

(2) 視覚障害者福祉DVDの製作及び生活支援活動への助成

助成先：社会福祉法人日本盲人職能開発センター

・ボランティア指導用DVD 「共に生きる」視覚障害者のPC支援 ～NPO法人SPANの活動～ 製作へ助成

・下記福祉講演会出張費への助成（2019年4月1日～2020年3月31日）

NO	開催日	用務地・内容	対象者	内容	備考
1	2019 6/20 ～ 6/21	(帯広市) 日本盲人社会福祉連絡協議会 全国盲人福祉施設大会	職員・障害者・ ボランティア	福祉講演 映画	ガイドブック 配布
2	2019 7/3 ～5	(徳島市) 全国社会就労センター総合研究大会	職員・障害者・ ボランティア・	〃	〃
3	2019 7/26 ～28	(盛岡市) 視覚リハビリテーション協会研究発表会	職員・障害者・ ボランティア・ 学生	〃	〃
4	2019 12/26 ～27	(大分市) 三菱商事太陽(株)研修会	職員・障害者・	〃	〃

・福祉映画利用相談及び貸出諸費への助成

・貸出ビデオ更新費への助成

(3) 「盲人との接し方」ガイドブックの製作への助成

助成先：社会福祉法人日本盲人職能開発センター

小冊子「盲人に接する人々のために」は視覚障害者との接し方をイラストを交えて分かりやすく解説したもの。1万部を製作し、視覚障害者の福祉講演会や映画会会場のほか、都道府県・市町村役場の福祉課にも配布した。

(4) 点字技能検定事業への助成

助成先：日本盲人社会福祉施設協議会

日本盲人社会福祉施設協議会の主催する点字技能検定事業に助成した。

全国の点字に関する卓越した知識、技術を持つ方に対し、点字技能検定を受ける機会を提供し、点字技能師の資格を付与することにより、点字関係職種の専門性と社会的認知度を高め、点字の普及と質の向上を図り、視覚障害者に的確な情報を提供することを目的としている。

2019年度の第20回点字技能検定試験は、11月17日（日）に、東京、大阪、名古屋、福島の4会場で行われた。

(5) 視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成

助成先：全国盲老人福祉施設連絡協議会

2019年7月30日（火）～8月2日（金）に都内で開催された第13回視覚障害者ケア専門技術認定講習会への助成。

この講習会は、全国の盲養護老人ホーム・聴覚障害老人ホーム及び特別盲養護老人ホームにおける視覚・聴覚障害者へケアをする専門職としての知識と専門的サービスの技術を取得し、施設におけるサービスの向上を目的として開催された。

(6) その他の助成

- ・聾者の団体が主催する野球大会に優勝・準優勝・最優秀投手賞楯を贈呈

助成先：神奈川ろう社会人軟式野球連盟

全日本ろう社会人軟式野球連盟

- ・チャリティ映画会開催に助成（映画のチケット購入）

助成先：日本点字図書館、日本聾話学校

- ・本間一夫文化賞に助成（記念品代）

助成先：日本点字図書館

- ・東京都盲人福祉大会に助成

助成先：東京都盲人福祉協会

- ・失明原因の解明と失明予防・知識の普及と啓発を図る

助成先：日本失明予防協会

- ・東京都社会福祉協議会関係会費

助成先：社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

- ・視覚障害者も鑑賞できる絵画 マリス作品展への助成金

助成先；一般財団法人世界ダイバーシティアートプロジェクト

- ・盲人の大学開放 70 周年記念事業への助成

助成策；盲人の大学開放 70 周年記念事業実行委員会

- ・視覚障害者のテニス大会への助成

助成先；日本ブラインドテニス連盟

3. 文化及び芸術に関する各種の公演、講座等

(1) グランプリ・コンサート2019 (公財)日本室内楽振興財団 と共催

第9回大阪国際室内楽コンクールのフェスタ部門（クラシック音楽に限らず、世界の伝統楽器や民族音楽も対象。年齢の制限なし）で優勝した、ロシアの2人の演奏家を日本に招聘。全国10か所の公演のうち、東京公演を主催した。

楽器は、ドムラ（ロシアの弦楽器）、バヤン（ロシア、ウクライナの民族楽器。アコーディオンの一種）。若きロシアの2人の演奏家の超絶的な技術と、自由と創造性に溢れた演奏は、感激的で大好評であった。

日本点字図書館の協力で、視覚障がい者の方約60人を招待。

普段、ロシアの民族楽器の生の演奏を聴くことが少ないため、とても貴重な演奏会で

あった。

開催日：2019年11月17日(日)

会場：東京都文京区 トッパンホール

入場者数：約300名

(2) 第13回 想いで詩コンサート 東京公演 主催

世代やジャンルを超えて将来も残していきたい、歌い継いでいきたい日本の名曲を選曲。音楽の楽しさ、素晴らしさ伝えていくコンサート。

今までのクラシック歌手中心であった体制をガラリと変えて、昨年は、日本の最高峰のポップスボーカルグループ「サーカス」の中心メンバーであった、夫婦デュオの「2VOICE」(叶央介、原順子)出演によるコンサートにイメージチェンジ。また、FCT(福島中央テレビ)郡山少年少女合唱団が共演したのも大きな特徴である。

「音楽の黄金時代」と言われる、1960年代から70年代のポップスの名曲を中心に、海外の名曲も散りばめて選曲、構成。

会場は、新潟県佐渡市。佐渡のみなさんが、素晴らしい名曲の数々でつづられた2時間余りを心ゆくまで堪能した。

この「想いで詩コンサート」も、普段プロの音楽をライブで聴く機会が少ない、都市部以外の町を中心に開催している。

開催日：2019年10月26日(土)

会場：新潟県 佐渡市 アミューズメント佐渡 大ホール。

入場者；約600名。

(3) スクールコンサート 宮崎県小林市にて開催

一昨年からスタートした新企画のコンサート。

このコンサートは、次代を担う、小・中学校の子供たちに、日本、海外の幅広く様々なジャンルの名曲を選曲して構成。音楽の素晴らしさと楽しさを伝えるコンサート。

プロの演奏家や歌手の生の音楽に触れる機会を創るだけでなく、地元中学校の吹奏楽部や少年少女合唱団が、プロの演奏家と共演する機会を創ることも、このスクールコンサートの大きな特徴である。

普段、プロの生の音楽の演奏に接することが少ない、都市部以外の町を中心に開催している。

2019年度は、宮崎県小林市にて開催。

地元小林市、えびの町、高原町の16の小・中学校の約900名の生徒の皆さんが、このコンサートを体験。

同時に、地元小林中学校、細野中学校の吹奏楽部の皆さんが、プロの演奏家と共演し、とても貴重な音楽体験となった。

全国の小・中学校、及び教育委員会、市民会館と協力して実施している。

開催日：2019年11月28日(木)

会場：宮崎県小林市文化会館

入場者：約900名。宮崎県小林市、えびの町、高原町の16の小・中学校の生徒のみなさんが対象。入場 無料。

また、この他に、東京都文京区の筑波大学附属視覚特別支援学校 体育館にて、スクールコンサートを、11月21日(木)に開催した。

過去3年間は、数人のクラシック歌手を招いてのコンサートだったが、今回は、趣向を変えて、総勢26名のオーケストラを招聘して、とても豪華なコンサートになっ

た。

また、視覚障害者の生徒の皆さんが、プロの演奏家の生演奏を体感するだけでなく、音楽部の生徒の2人が、それぞれ、バイオリン、アルトサックスの楽器をソロで演奏し、オーケストラと共演。また6人の生徒のみなさんが合唱で参加。とても貴重な経験となり、大成功であった。

その他、3月に、東京都武蔵村山市、東京都八王子市にて、それぞれスクールコンサートを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、残念ながら中止となった。

(4) 聲明公演 主催

日本音楽の源流といわれる「聲明」を日本の伝統文化と捉え、次代に継承することを目的としたコンサート。「天台聲明 七聲會」とピアノ、バイオリン、オーボエなどの西洋楽器が共演した。

第一部は、「四箇法要」。「四箇法要」は、聲明法要の中でも、最も厳粛で格式の高い儀式と言われ、令和の時代の始まりにふさわしい。その「四箇法要」の楽曲を、天台聲明・七聲會が唱える。

第二部は、「天台密教」の世界を、財団のオリジナルの表現である、西洋楽器とのコラボレーションで、「聲明」の新しく華やかな世界観を舞台として演出した。

開催日：2020年1月24日(金)

会場：東京 浜離宮朝日ホール。

入場者数：420名

(5) 親子で楽しむ〜つうコンサート 無料公演

團伊玖磨が作曲したオペラ「夕鶴」のエッセンスで構成された、ユニークなコンサ

ート。人への思いやり、約束を守るということ、恩返しとは何か、など様々なことを語りかけてくるコンサート。

毎回、開催される地元の少年少女の合唱団が、プロの歌手と共演することもこのコンサートの大きな特徴である。

内容を、子供たちにも分かりやすくするため、序幕でイラストとナレーションを加える演出を行っている。

2019年度は、島根県 隠岐島で開催。

ただし、過去、5回行ってきたが、入場者数が年々減少してきたため、2019年度の公演をもって、中止とする。

あえて、「夕鶴」という題材によるコンサートにこだわらず、ジャンルを超えて幅広く音楽の素晴らしさを伝える「スクールコンサート」、「想いでの詩コンサート」を充実させていく。

開催日：2019年8月18日(日) 会場： 島根県隠岐島文化会館

入場者： 180名 入場無料

4. 文化及び芸術に関する事業、活動への助成

(1) 「第71回 高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」 に対する助成

助成先：日本学生協会基金

1949年という戦後のまだ混乱期に、今後の日本の将来を見据え、将来の日本を担う国際性豊かな青少年を育てるためには英語教育が必要である、という理念のもと立ち上げられた中学生の英語弁論大会。

2019年度は、71回目の大会であった。上記大会への助成。

各都道府県で行われた予選には約10万人の全国の中学生が参加した。